

柏の景気情報（平成18年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成18年11月分）

○ 調査期間 : 平成18年11月17日 ~ 11月22日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	73	73.7%
建設	17	15	88.2%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	40	29	72.5%
サービス	19	12	63.2%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【18年11月の調査結果のポイント】

◀ 業況DI値は悪化。7月から一進一退が続く ▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.3(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が▲5.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△17.6(同△13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲8.3(同▲15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.1(同▲7.4)、建設業▲26.6(同▲20.0)である。

【建設業】では、「受注先は自社との収益管理をしながらの発注のため、受注までの期間が長い」、「大型集合住宅・大型ショッピングモール、地元業者と無縁の開発だけが目立つ。市の税収が入らないままで良いのだろうか?」、「工事が集中する時期。人の手による施工のため間に合わない事態が出ており、外注を依頼するにもこの時期は集中する。年内は休日返上となりそう。工期に余裕が欲しい」との声や、「変化なし」との声も寄せられた。

【製造業】では、「好天が続き出荷は順調に伸びた。業界全体平均でも前年比101%程度となった」、「業界自体は好転に転じており当面は良好」との明るい声が寄せられた。

【卸・小売業】では、「ららぽーと柏の葉オープン等で柏商圏における競合激化」、「イオン出店に続き、柏のららぽーとがオープンした。大手出店の影響が売上・時給アップ等にでてきそう」、「ららぽーと柏の葉オープンでにぎわいに大きな期待」、「柏北部の消費者は、ららぽーとのオープンに期待して消費を控えている」とのららぽーと柏の葉開店の影響の声が寄せられた。「衣料は高気温の影響で悪化」、「天候が昨年より悪かった事が影響しており、お歳暮などの出足悪い」、「衣料は、暖冬のため冬物衣料(コート、セーター)の伸びが無い」、「気温が低下し、冬物のカジュアル衣料品を中心に売れている」、「初旬は気温がなかなか下がらなかったことから、衣料品でリアル商材であるアウターの動きが鈍く、売上高は低調な推移となった。2週目の週末から気温が下がってきたことから、若干売上高は盛り返しをみせた」との天候の影響の声が寄せられた。「原油高騰による影響」、「LPガスは10月価格が高騰でなかなか出口が見えない」との原油・LPガス高騰の声や、「食品は昨年を維持しているが、野菜の相場安の影響により単価低いため、青果は昨年未達の状況」、「果実は、ミカン・リンゴの主力品の入荷伸び悩み、全体的品薄傾向で価格は前年を上回る」、「温暖で野菜が豊作となり、入荷増加から価格安値の動きで、生産者からの悲痛な声が耳に入る」との青果に関する声や、「年末を控え食品業界も多少良い業況になる」、「年末、野菜は単価高が予想される」、「冬物の動きが悪い状況から、早めの値崩れにより荒利の確保がむずかしくなる」との年末・冬物商戦の声が寄せられた。「厳しい状況が続いている」、「世間の冬の賞与の支給次第で厳しい対応になる」との厳しい声が寄せられた。一方で「売上・採算共上昇傾向にある」との明るい声が寄せられた。「マスコミの飲酒運転報道は忘年会や新年会に影響が出る」との飲酒運転のマスコミ報道に関する声や、「卸としては、情報網をもって川上(生産者)、川下(消費者)の動きに集荷販売し、安定供給を図りたい」、「サービスポイント制を導入し他店との差別化」、「15日から降雪イベント・お買上プレゼントなどの集客イベントを実施し、集客を図り売上に繋げていく」との声が寄せられた。

【サービス業】では、「クリスマスの予約は去年より早く予約が入っている」、「七五三客が小人数ながらも、件数は有り、客単価も平均して高かった」、「ららぽーと柏の葉のオープンに伴う宴席受注、宿泊客の取り込み」との明るい声や、「ランチタイムはとても忙しいのに、ディナータイムはとても暇でした」、「宴会は例年に比べ小規模化」との声が寄せられた。

◎天候の影響

「好天が続き出荷は順調に伸びた」、「衣料は高気温の影響で悪化」、「温暖で野菜が豊作となり、入荷増加から価格は安値動きで、生産者からの悲痛な声も耳に入る」、「天候が昨年より悪かった事が影響しており、お歳暮などの出足悪い」、「衣料は、暖冬のため冬物衣料(コート、セーター)の伸びが無い」、「気温が低下し、冬物のカジュアル衣料品を中心に売れている」、「初旬は気温がなかなか下がらなかったことから、衣料品でリアル商材であるアウターの動きが鈍く、売上高は低調な推移となった。2週目の週末から気温が下がってきたことから、若干売上高は盛り返しをみせた」との声が寄せられた。

◎ららぽーと柏の葉

「ららぽーと柏の葉オープン等で柏商圏における競合激化」、「イオン出店に続き、柏のららぽーとがオープンした。大手出店の影響が売上・時給アップ等にでてきそう」、「ららぽーと柏の葉オープンでにぎわいに大きな期待」、「柏北部の消費者は、ららぽーとのオープンに期待して消費を控えている」、「ららぽーと柏の葉のオープンに伴う宴席受注、宿泊客の取り込み」との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲17.1	▲42.8	△33.3	▲33.3	▲21.4
7月	▲16.4	▲42.8	△22.2	▲21.4	▲30.7
8月	▲10.6	▲33.3	△16.6	▲10.7	▲21.4
9月	▲14.8	▲26.6	△5.5	▲14.8	▲28.5
10月	▲7.1	▲20.0	△13.3	▲7.4	▲15.3
11月	▲12.3	▲26.6	△17.6	▲24.1	▲8.3
見通し	▲10.9	▲20.0	▲17.6	▲3.4	▲8.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 6.8	△ 4.1	▲ 10.9	▲ 4.1	▲ 32.8	▲ 24.6	△ 12.3	△ 23.2
建設	▲ 33.3	±0.0	▲ 33.3	▲ 13.3	▲ 53.3	▲ 53.3	△ 13.3	△ 26.6
製造	△ 29.4	△ 17.6	△ 5.8	▲ 5.8	▲ 35.2	▲ 17.6	△ 17.6	△ 17.6
卸・小売	▲ 13.7	±0.0	▲ 17.2	▲ 3.4	▲ 31.0	▲ 17.2	±0.0	△ 13.7
サービス	▲ 8.3	±0.0	△ 8.3	△ 8.3	▲ 8.3	▲ 16.6	△ 33.3	△ 50.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.3	▲ 10.9	▲ 5.4	▲ 1.3
建設	▲ 26.6	▲ 20.0	▲ 13.3	△ 6.6
製造	△ 17.6	▲ 17.6	△ 5.8	▲ 5.8
卸・小売	▲ 24.1	▲ 3.4	▲ 10.3	±0.0
サービス	▲ 8.3	▲ 8.3	±0.0	▲ 8.3

【平成18年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.3(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が▲5.2ポイント拡大した。

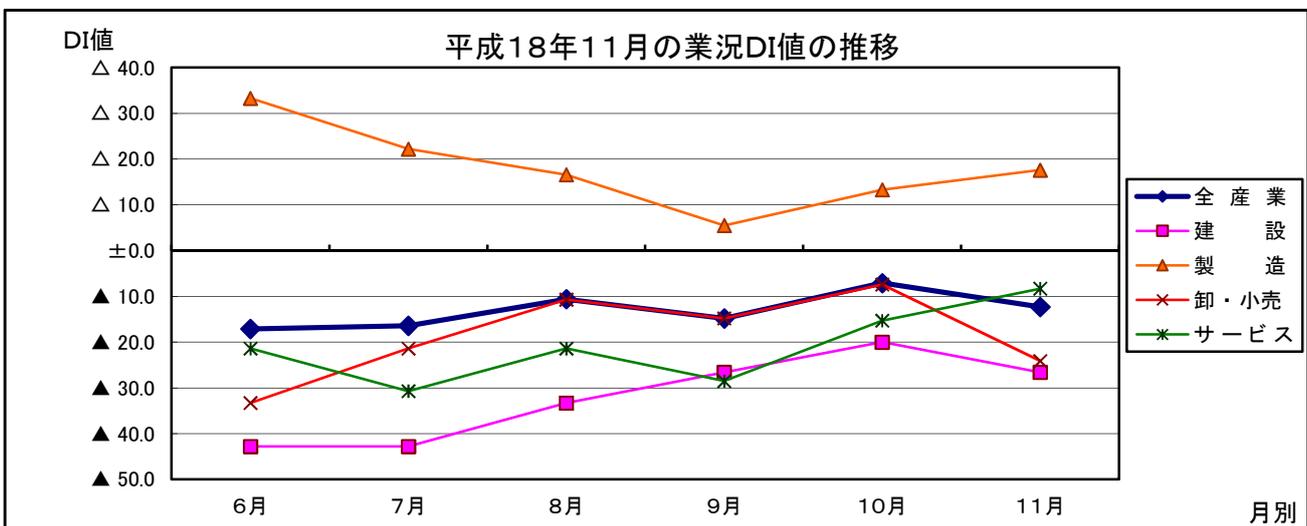
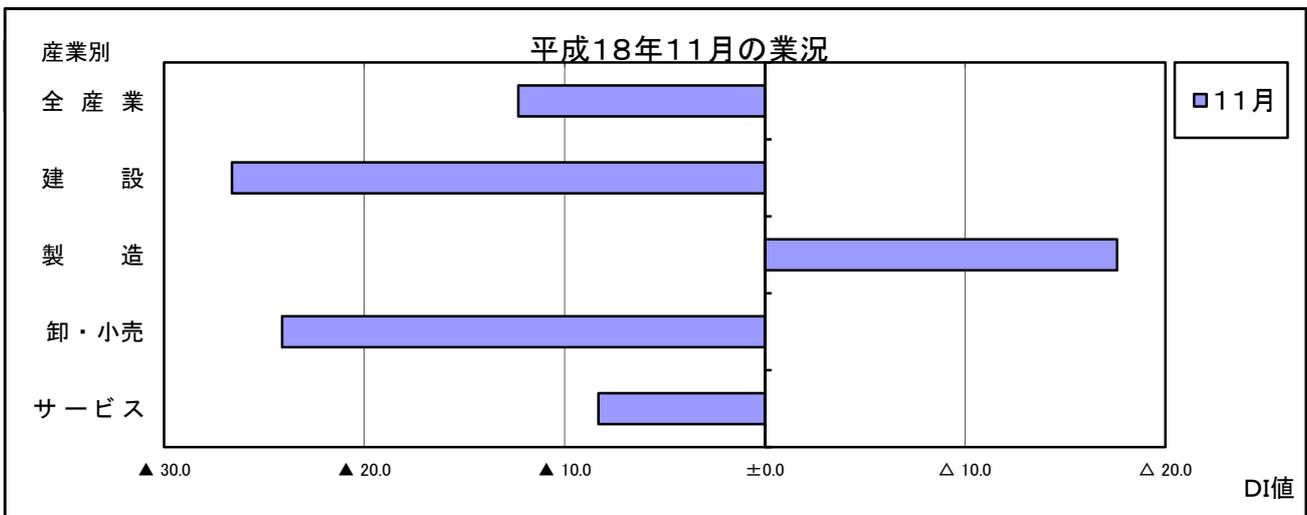
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△17.6(同△13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲8.3(同▲15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.1(同▲7.4)、建設業▲26.6(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.9(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が△6.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲8.3(同▲28.5)、卸小売業▲3.4(同▲17.8)、建設業▲20.0(同▲26.6)である。特に、サービス業はマイナス幅が△20.2ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲17.6(同±0.0)である。

平成18年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲17.1	▲16.4	▲10.6	▲14.8	▲7.1	▲12.3	▲10.9(▲17.3)
建設	▲42.8	▲42.8	▲33.3	▲26.6	▲20.0	▲26.6	▲20.0(▲26.6)
製造	△33.3	△22.2	△16.6	△5.5	△13.3	△17.6	▲17.6(±0.0)
卸・小売	▲33.3	▲21.4	▲10.7	▲14.8	▲7.4	▲24.1	▲3.4(▲17.8)
サービス	▲21.4	▲30.7	▲21.4	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲8.3(▲28.5)



【平成18年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.8(前月水準±0.0)となり、マイナス幅が▲6.8ポイント拡大した。

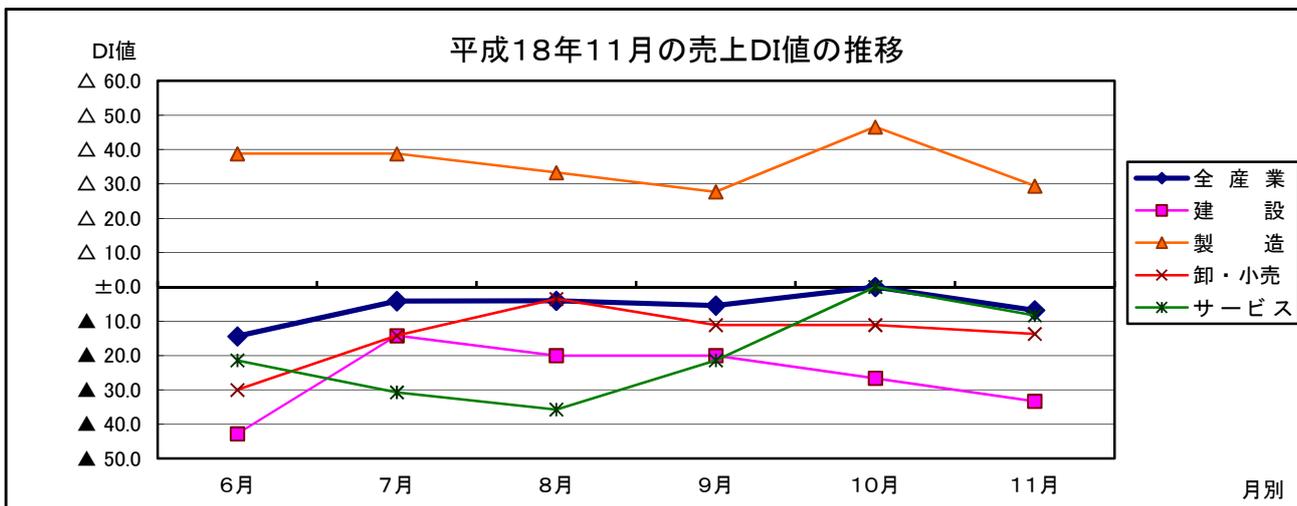
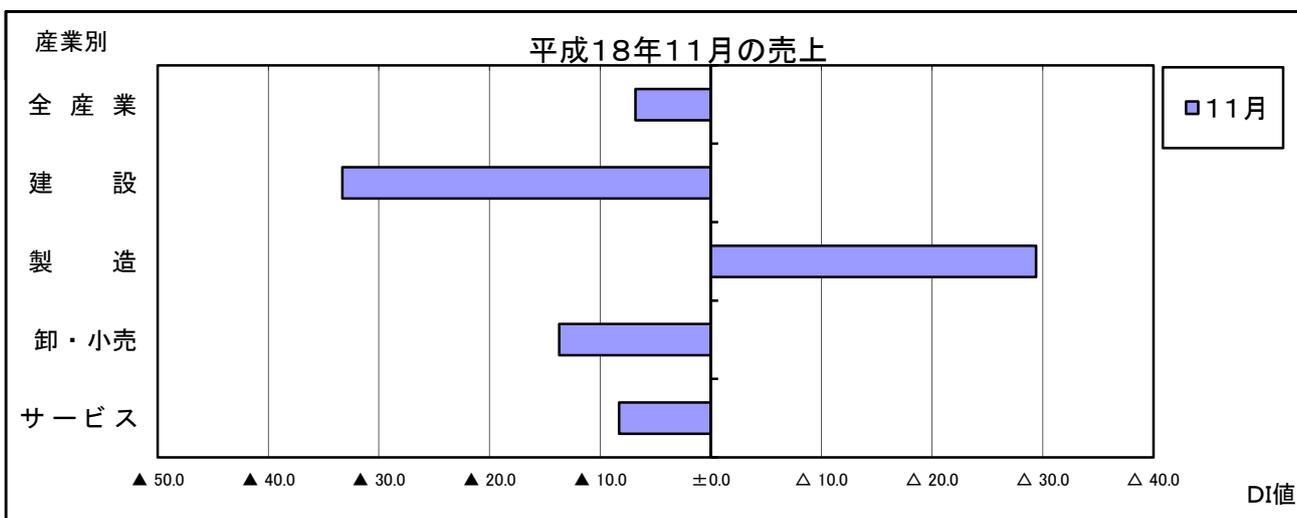
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△29.4(同△46.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲8.3(同±0.0)、建設業▲33.3(同▲26.6)、卸小売業▲13.7(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.1(前月水準▲8.0)となり、プラス幅が△12.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△17.6(同△22.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲33.3)、サービス業±0.0(同▲21.4)、卸小売業±0.0(同▲7.1)である。特に、建設業はマイナス幅が△33.3ポイントと、サービス業はマイナス幅が△21.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成18年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲14.4	▲4.1	▲4.0	▲5.4	±0.0	▲6.8	△4.1(▲8.0)
建設	▲42.8	▲14.2	▲20.0	▲20.0	▲26.6	▲33.3	±0.0(▲33.3)
製造	△38.8	△38.8	△33.3	△27.7	△46.6	△29.4	△17.6(△22.2)
卸・小売	▲30.0	▲14.2	▲3.5	▲11.1	▲11.1	▲13.7	±0.0(▲7.1)
サービス	▲21.4	▲30.7	▲35.7	▲21.4	±0.0	▲8.3	±0.0(▲21.4)



【平成18年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.9(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が▲5.2ポイント拡大した。

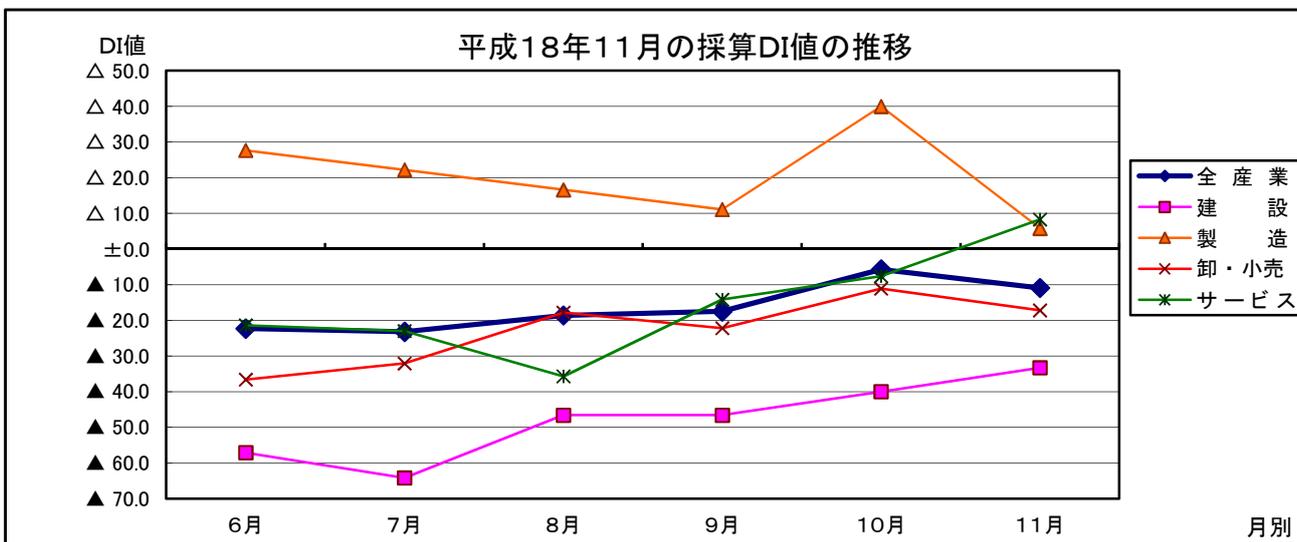
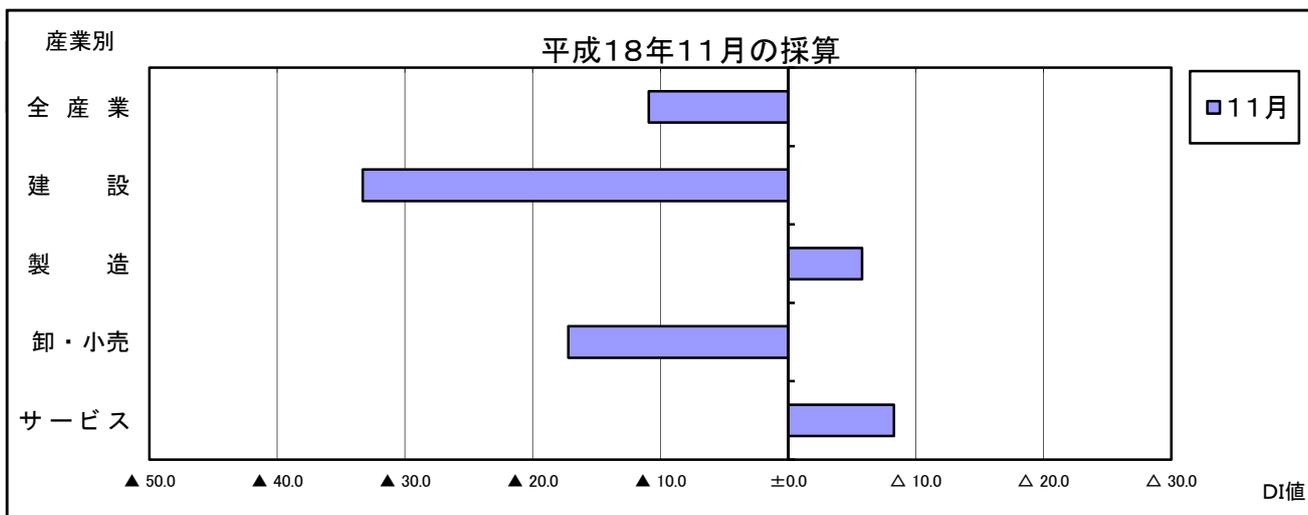
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△5.8(同△40.0)であり、プラス幅が▲34.2ポイントと大幅に縮小した。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△8.3(同▲7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲17.2(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.1(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が△13.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△8.3(同▲14.2)であり、△22.5ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.3(同▲60.0)、卸小売業▲3.4(同▲21.4)である。特に、建設業はマイナス幅が△46.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.8(同△22.2)であり、▲28.0ポイントと大幅に悪化する見通しである。

平成18年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲22.3	▲23.2	▲18.6	▲17.5	▲5.7	▲10.9	▲4.1(▲17.3)
建設	▲57.1	▲64.2	▲46.6	▲46.6	▲40.0	▲33.3	▲13.3(▲60.0)
製造	△27.7	△22.2	△16.6	△11.1	△40.0	△5.8	▲5.8(△22.2)
卸・小売	▲36.6	▲32.1	▲17.8	▲22.2	▲11.1	▲17.2	▲3.4(▲21.4)
サービス	▲21.4	▲23.0	▲35.7	▲14.2	▲7.6	△8.3	△8.3(▲14.2)



【平成18年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が△7.2ポイント縮小した。

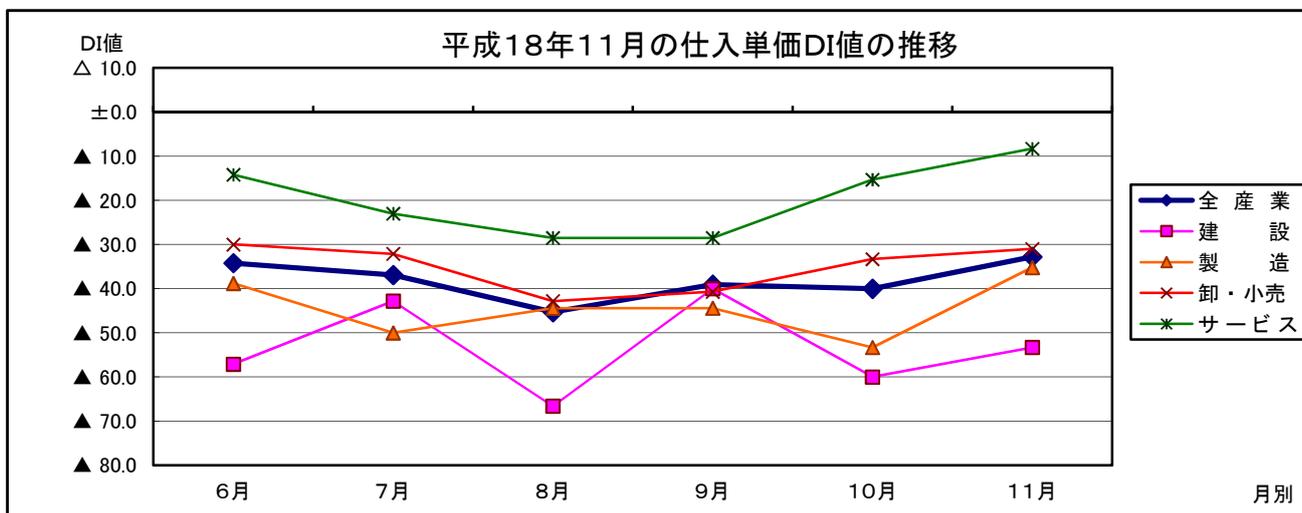
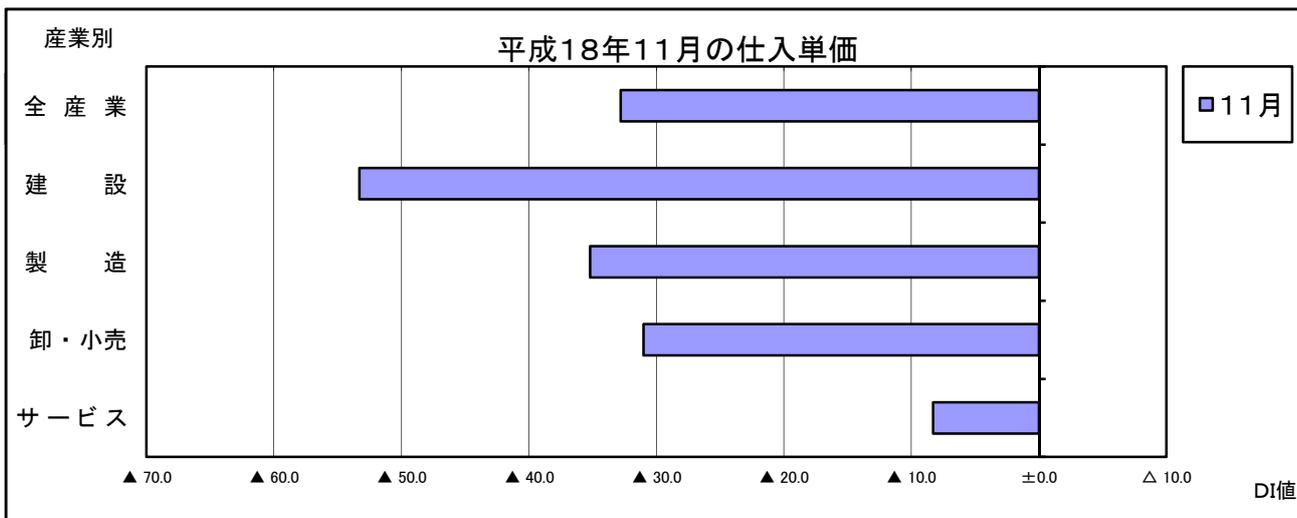
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲53.3)、サービス業▲8.3(同▲15.3)、建設業▲53.3(同▲60.0)、卸小売業▲31.0(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.6(前月水準▲34.6)となり、マイナス幅が△10.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同▲39.2)、サービス業▲16.6(同▲28.5)、製造業▲17.6(同▲22.2)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△22.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲53.3(同▲46.6)である。

平成18年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲34.2	▲36.9	▲45.3	▲39.1	▲40.0	▲32.8	▲24.6(▲34.6)
建設	▲57.1	▲42.8	▲66.6	▲40.0	▲60.0	▲53.3	▲53.3(▲46.6)
製造	▲38.8	▲50.0	▲44.4	▲44.4	▲53.3	▲35.2	▲17.6(▲22.2)
卸・小売	▲30.0	▲32.1	▲42.8	▲40.7	▲33.3	▲31.0	▲17.2(▲39.2)
サービス	▲14.2	▲23.0	▲28.5	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲16.6(▲28.5)



【平成18年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.3(前月水準△14.2)となり、プラス幅が▲1.9ポイント縮小した。

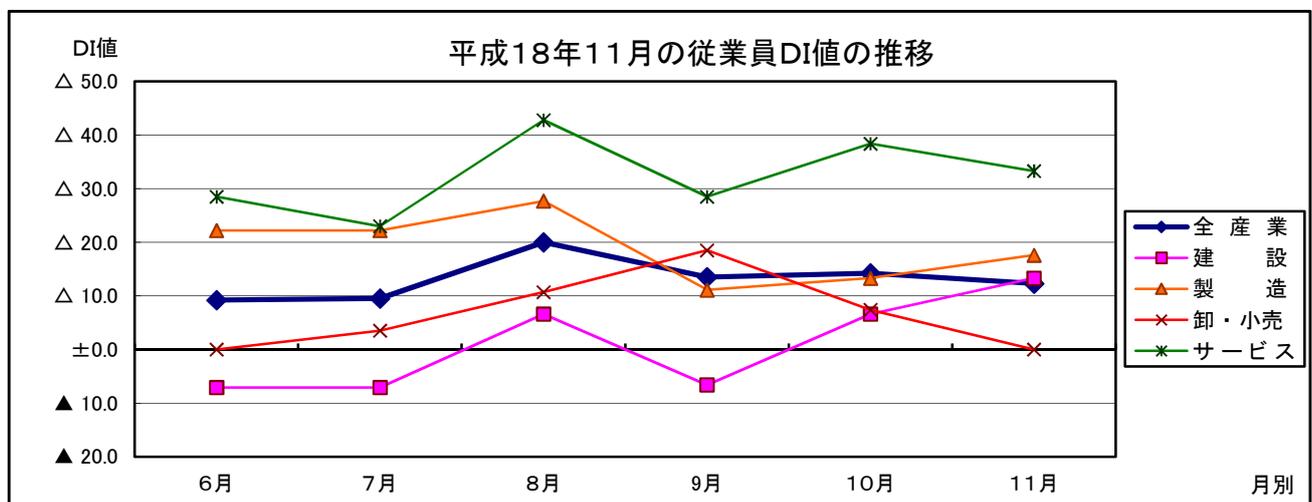
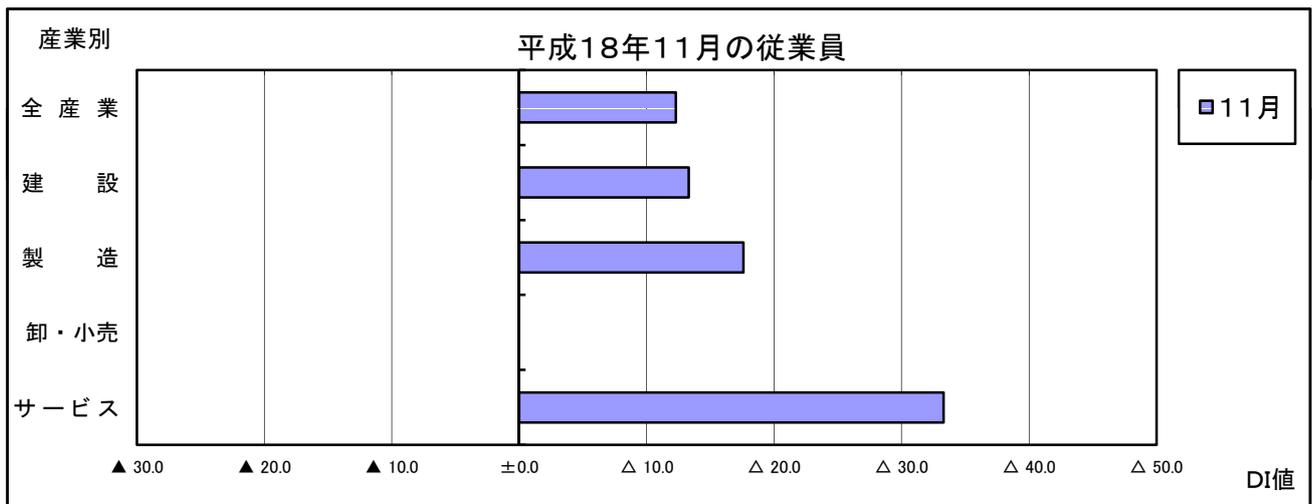
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△13.3(同△6.6)、製造業△17.6(同△13.3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業±0.0(同△7.4)、サービス業△33.3(同△38.4)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△23.2(前月水準△17.3)となり、プラス幅が△5.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、幅の大きい順に、建設業△26.6(同△6.6)、サービス業△50.0(同△42.8)、製造業△17.6(同△11.1)である。特に、建設業はプラス幅が△20.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△13.7(同△14.2)である。

平成18年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△ 9.2	△ 9.5	△ 20.0	△ 13.5	△ 14.2	△ 12.3	△ 23.2 (△ 17.3)
建設	▲ 7.1	▲ 7.1	△ 6.6	▲ 6.6	△ 6.6	△ 13.3	△ 26.6 (△ 6.6)
製造	△ 22.2	△ 22.2	△ 27.7	△ 11.1	△ 13.3	△ 17.6	△ 17.6 (△ 11.1)
卸・小売	±0.0	△ 3.5	△ 10.7	△ 18.5	△ 7.4	±0.0	△ 13.7 (△ 14.2)
サービス	△ 28.5	△ 23.0	△ 42.8	△ 28.5	△ 38.4	△ 33.3	△ 50.0 (△ 42.8)



【平成18年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.4(前月水準▲1.4)となり、マイナス幅が▲4.0ポイント拡大した。

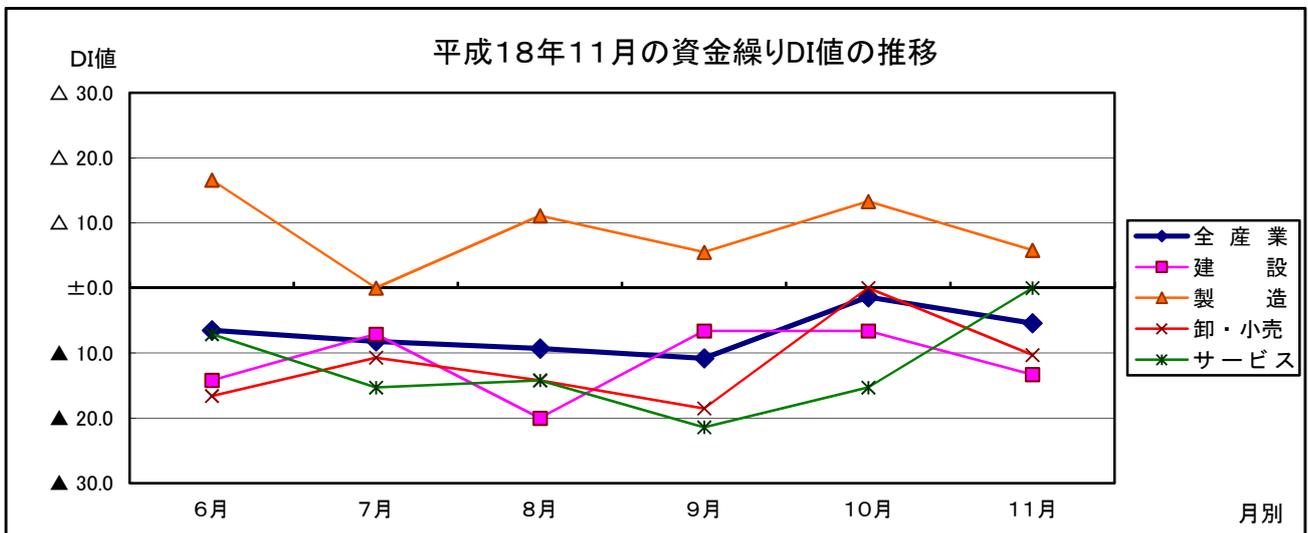
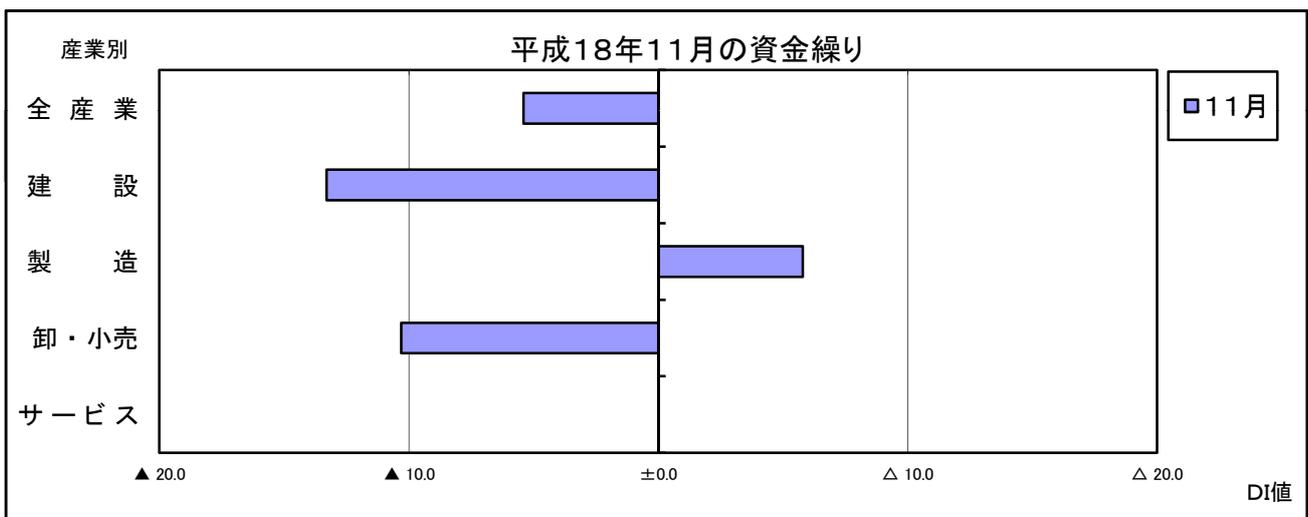
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△5.8(同△13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同▲15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲10.3(同±0.0)、建設業▲13.3(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.3(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が△5.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△6.6(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲17.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.8(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲8.3(同±0.0)である。

平成18年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲ 6.5	▲ 8.2	▲ 9.3	▲ 10.8	▲ 1.4	▲ 5.4	▲ 1.3 (▲ 6.6)
建設	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	△ 6.6 (▲ 6.6)
製造	△ 16.6	±0.0	△ 11.1	△ 5.5	△ 13.3	△ 5.8	▲ 5.8 (△ 5.5)
卸・小売	▲ 16.6	▲ 10.7	▲ 14.2	▲ 18.5	±0.0	▲ 10.3	±0.0 (▲ 17.8)
サービス	▲ 7.1	▲ 15.3	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 15.3	±0.0	▲ 8.3 (±0.0)



【平成18年11月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード
建設	業界を取り巻く事業所(受注先)も、自社との収益管理をしながらの発注の為か、受注までの期間が長い場合もある。その事をとると、景気回復は時間がかかるのかな。世の中全体は動いている。	・受注長期化
	大型集合住宅、大型ショッピングモール、地元業者と無縁の開発だけが目立つ。市の税収が入らないままで良いのだろうか？	・市外業者参入
	変化なし	・変化なし
	工事が集中する時期です。人間の手による施工なのでどうしても間に合わない事態も出てきます。外注を依頼するにもこの時期は集中します。年内は休日返上となりそうです。工期に余裕が欲しいところです。	・工事集中 ・人手不足
製造	10月中旬以降好天が続き、出荷は順調に伸びた。業界全体平均でも前年比101%程度となった模様。	・天候の影響 ・売上増加
	業界自体は、好転に転じており当面は良好と思われる	・複写機業界好転
卸・小売	年末を控え食品業界も多少良い業況になると思います。ただ飲食店を中心に過剰なまでのマスコミの飲酒運転報道は、忘年会や新年会にまで影響が出ると思われます。	・年末商戦 ・飲酒運転
	ららぽーと柏の葉オープン等柏商圈における競合の激化が予想される。	・ららぽーと柏の葉 ・競争激化
	厳しい状況が続いており、特に衣料が高気温の影響により悪い状況。食品は昨年を維持しているが野菜の相場安の影響により単価低く、青果のみ昨年未達の状況。冬物の動きの悪い状況から、早めの値崩れにより荒利の確保がむずかしくなる懸念がある。	・厳しい状況 ・天候の影響 ・衣料低調 ・食品横這い ・青果単価安 ・冬物商戦
	5月のイオンの出店に続き柏のららぽーとが今月またオープンします。大手の出店の影響が売り上げ、時給アップ等にできそうです。	・ららぽーと柏の葉
	昨今の温暖に野菜が豊作となり、入荷増加から価格は安値動きで、生産者からの悲痛な声も耳に入る状況であります。卸としては、情報網をもって川上(出産者)、川下(消費者)の動きに集荷販売し、安定供給を図りたい。年末に向けて、単価高も予想されます。果実は、ミカン・リンゴの主力品の入荷伸び悩み、全体的品薄傾向で今後も価格は前年を上回る。販売は厳しい状況であります。11月ららぽーと柏の葉オープンでますますのにぎわいに大きな期待を寄せています。	・天候の影響 ・青果豊作 ・青果単価安 ・年末商戦 ・果実単価高 ・ららぽーと柏の葉
	中旬の天候が昨年より悪かった事などが影響しているものと思われる。お歳暮なども出足が悪い。	・天候の影響 ・年末商戦
	衣料は、暖冬のため冬物衣料(コート、セーター)の伸びが無い。商品在庫済みのため不安！売上・採算共上昇傾向にあるが世間一般の冬の賞与の支給次第で厳しい対応になるのが不安。柏北部の消費者はここところ、ららぽーとのオープンに期待して消費を控えているようだ。	・天候の影響 ・冬物商戦 ・売上増加 ・採算改善 ・ボーナス ・ららぽーと柏の葉 ・消費手控え
	原油高騰による影響	・原油高騰
	先月原油価格少々下落と書いたが、期待通りにはいかない。ましてやLPガスに関しては10月価格が高騰している。なかなか出口が見えない。暖冬なのに一年中氷河期だ。次回調査表に好御期待。	・LPガス高騰
	今日よりサービスポイント制を導入。他店との差別化が出来れば良いのだが。	・差別化戦略
	気温が低下し、冬物のカジュアル衣料品を中心に売れている。	・天候の影響 ・冬物商戦
11月初旬は気温がなかなか下がらなかったことから、衣料品でリアル商材であるアウターの動きが鈍く、売上高は低調な推移となった。2週目の週末から気温が下がってきたことから、若干売上高は盛り返しをみせた。11/15日から【2006 Christmas Live Laugh Love】を開催、期間中、降雪イベント、お買上プレゼントなどの集客イベントを実施し、集客を図り売上に繋げていく。	・天候の影響 ・衣料低調 ・冬物商戦 ・イベント	

【平成18年11月の業種別業界内トピックス】

サービス	文化勲章の緑綬褒章を組合員の栗原章雄氏が11月16日授章致しました。36年間もの長きにわたり養護施設4ヶ所に理容奉仕を続けての授章でした。	
	ランチタイムはとても忙しいのに比べ、ディナータイムはとても暇でした。クリスマス予約は去年より早く予約が入ってきています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ好調 ・ディナー不調 ・年末商戦
	七五三客が小人数ながらも、件数は有り、客単価も平均して高かったようです。	<ul style="list-style-type: none"> ・七五三
	年末セールにあわせたイベント(地域的な)があってもいいのではないか？	
	SCのオープンに伴う宴席受注、宿泊客の取り込み、宴会は例年に比べ小規模化	<ul style="list-style-type: none"> ・ららぽーと柏の葉 ・宴会小規模化

【平成18年11月の多い景気キーワード】

◎天候の影響

- ・ 10月中旬以降好天が続き出荷は順調に伸びた。 (製造業)
- ・ 衣料が高気温の影響により悪い状況。食品は昨年を維持しているが野菜の相場安の影響により単価低く、青果のみ昨年未還の状況。冬物の動きの悪い状況から、早めの値崩れにより荒利の確保がむずかしくなる懸念がある。 (卸小売業)
- ・ 昨今の温暖に野菜が豊作となり、入荷増加から価格は安値動きで、生産者からの悲痛な声も耳に入る状況であります。 (卸小売業)
- ・ 中旬の天候が昨年より悪かった事などが影響しているものと思われる。お歳暮なども出足が悪い。 (卸小売業)
- ・ 衣料は、暖冬のため冬物衣料(コート、セーター)の伸びが無い。商品在庫済みのため不安！売上・採算共上昇傾向にあるが、世間一般の冬の賞与の支給次第で厳しい対応になるのが不安。 (卸小売業)
- ・ 気温が低下し、冬物のカジュアル衣料品を中心に売れている。 (卸小売業)
- ・ 11月初旬は気温がなかなか下がらなかったことから、衣料品でリアル商材であるアウターの動きが鈍く、売上高は低調な推移となった。2週目の週末から気温が下がってきたことから、若干売上高は盛り返しをみせた。 (卸小売業)

◎ららぽーと柏の葉

- ・ ららぽーと柏の葉オープン等柏商圈における競合の激化が予想される。 (卸小売業)
- ・ 5月のイオンの出店に続き柏のららぽーとが今月またオープンします。大手の出店の影響が売り上げ、時給アップ等にてできそうです。 (卸小売業)
- ・ 11月ららぽーと柏の葉オープンでますますのにぎわいに大きな期待を寄せています。 (卸小売業)
- ・ 柏北部の消費者はこここのところ、ららぽーとのオープンに期待して消費を控えているようだ。 (卸小売業)
- ・ SCのオープンに伴う宴席受注、宿泊客の取り込み、宴会は例年に比べ小 (サービス業)

平成18年11月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.3に対し、「CCI-LOBO」が▲24.5で、マイナス幅が12.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.8に対し、「CCI-LOBO」が▲17.1で、マイナス幅が10.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業。10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲26.1で、マイナス幅が20.4ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.8に対し、「CCI-LOBO」が▲24.4で、マイナス幅が8.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△12.3に対し、「CCI-LOBO」が△0.4で、プラス幅が11.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.4に対し、「CCI-LOBO」が▲16.6で、マイナス幅が11.2ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。

平成18年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.3	 26.6	 17.6	 24.1	 8.3
CCI LOBO	 24.5	 39.6	 11.3	 22.8	 25.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 6.8	 33.3	 29.4	 13.7	 8.3
CCI LOBO	 17.1	 32.4	 2.9	 20.7	 18.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.9	 33.3	 5.8	 17.2	 8.3
CCI LOBO	 24.6	 43.8	 16.2	 19.1	 25.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.8	 53.3	 35.2	 31.0	 8.3
CCI LOBO	 24.4	 35.6	 41.4	 10.9	 16.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.3	 13.3	 17.6	 ±0.0	 33.3
CCI LOBO	 0.4	 13.4	 3.2	 5.5	 1.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.4	 13.3	 5.8	 10.3	 ±0.0
CCI LOBO	 16.6	 27.3	 12.7	 12.5	 18.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成18年11月17日～24日

調査対象：全国の407商工会議所が2589業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況DIのマイナス幅は縮小も、暖冬予想や仕入コスト高の影響あり

十一月の景況をみると、全産業合計の業況DIは前年同月比ペース（以下同じ）は、前月水準（一五二）よりマイナス幅が〇七ポイント縮小して一四五となり、二カ月連続でマイナス幅が縮小した。

【建設業】では、「大規模な設備投資が行われることになつており、受注が増加傾向にある」（電気工事）との声がある一方、「公共工事の発注は来月までがピークで、その後は減少する見込みであり、民間工事も上向きではあるものの、採算は低迷している」（管工事）、「公共工事は発注量が減少しているため競争が激化しており、赤字受注が増加している」（土木工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「仕入コスト上昇が落ち着くとともにこれまでの上昇分も価格転嫁できると判断し、仕入単価は不変採算は好転とした」（一般産業用機械製造）との声がある一方、「受注量が減少傾向にある」と先行きも減少すると見込んでいる（鉄鋳形材製造）とのコメントのほか、「原材料のうち特にスチールレスの仕入価格が依然として上昇しており、売上減少と相まって、業況は悪化

する見込み」（通信機械器具製造）と、仕入コスト上昇による先行き不安を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「十一月上旬近隣に惣菜やお弁当を販売する店舗が開店したため、得意先となれば売上や採算が好転すると思われる」（食料・飲料卸売）との声がある一方、「インターネット通信販売の広がりにより当業界の業況は依然として厳しく、好転材料に乏しい」（衣服・日用品卸売）とのコメントのほか、「売上は確保できていても採算が悪化している企業が目立って、一部では減少した従業員を補充できない例もある」（農畜産水産物卸売）と、従業員の採用もままならない状況を訴える声も寄せられている。

【小売業】では、「おせち料理やボジョレヌーボーの販売実績が昨年を大きく上回っている」（百貨店）との声がある一方で、「暖冬予想の影響で衣料品を中心とした冬物商品の出足が今一歩であり、年末商戦は法人需要の低迷を予想している」（百貨店）、「昨年と比べて気温が高いせいにか防寒具の売れ行きは鈍く、先行きも不安を感じている」（商店街）と、暖冬予想の影響による冬物商品の売上低迷を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「客室はフル稼働状態で業況は前年同月比で好転しており、年末年始を迎えることから先行きも明るいと考えている」（旅館との声がある一方で、「年末年始を迎えて忘年会や新年会の予約が入ると見込んでいるが、例年、宴会規模の縮小、客単価の下落に見舞われており、過度な期待はできないと考えている」（食堂・レストラン）とのコメントも寄せられている。また、「燃料価格は若干の下落傾向にあるが、再び上昇する可能性もあると考えており、しばらくはその動きを注視する必要がある」（その他サービス）と、仕入コスト再上昇への不安を訴える声も寄せられている。

十一月のキーワード

回復への動き

各業種から、業況好転、売上好調、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「高級素材が好評でヨーロッパからの引き合いもあり、昨年同月比で業況は若干ではあるが好転（織物製造）」、「原油価格高騰が落ち着き仕入コスト上昇傾向に歯止めがかかったのに加え、市が支出する助成金の活用により設備投資も活発化している」（金属加工機械製造）とのコメントが寄せられている。また、「納品価格引き下げ要求を受けているもののホームセンター向けの売上は昨年同月と比べて好調に推移」（他の卸売）、「鍋料理の材料の売上が伸び始めることも、クリスマスやお歳暮ギフトも

を迎えることから先行きも明るいと考えている」（旅館との声がある一方で、「年末年始を迎えて忘年会や新年会の予約が入ると見込んでいるが、例年、宴会規模の縮小、客単価の下落に見舞われており、過度な期待はできないと考えている」（食堂・レストラン）とのコメントも寄せられている。また、「燃料価格は若干の下落傾向にあるが、再び上昇する可能性もあると考えており、しばらくはその動きを注視する必要がある」（その他サービス）と、仕入コスト再上昇への不安を訴える声も寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事の減少や競争激化、消費の低迷など業況低迷、借入金の上昇、仕入コストなど経費の増加による採算悪化を訴える声も寄せられている。建設業からは、「本県の建設業界は公共事業が頼りだが、今後も予算の減額が見込まれており、当分は厳しい状況が続く」（一般工事）、「繁忙期に入り売上高は伸びているが、借入金の上昇や燃料費高止まりなどコスト増加が懸念される」（セメント製品製造）との声が寄せられている。また、「卸売小売、サービスからは、「コンビニエンスストアの増加により得意先である地元の小売店舗の閉店が続いているため、売上高が減少」（食料・飲料卸売）、「暖冬予想の影響を受け、冬物衣料の売上が今ひとつといった感を受けている」（商店街）、「インターネット経由の予約増加による手数料などコスト負担が多くなっており、宿泊料金への転嫁を考えているが、現状では難しい」（旅館）との声も寄せられている。

また、「暖冬予想による生産・売上の低迷を訴える」コメントが寄せられている。製造からは、「円安に伴い中東向けを中心に輸出は好調だが、内需は気温が下がらず秋冬物衣料品の受注で苦戦」（織物）、「例年と比較して気温が高く、冬物商品の動きが低調のまま推移」（各種商品卸売）との声が寄せられている。また、「小売からも、暖冬予想の影響を受け、防寒具など冬物衣料品の売上が伸びず、仕入コストだけが少しずつ上昇している」（商店街）、「例年に比べて気温が高く暖冬になる気配が感じられるため、業況は衣料品の売上を中心にやや不振と判断している」（百貨店）、「大型店の新規出店や例年よりも高い気温の影響を背景に、秋冬物の衣料品の売上が減少している」（百貨店）といった声も寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	27.5	44.1	16.1	31.5	23.4	32.5
7月	24.0	36.5	8.3	31.8	22.4	31.4
8月	22.9	34.8	12.8	30.5	19.7	26.7
9月	27.0	43.1	14.3	32.9	22.0	33.3
10月	25.2	38.1	13.4	34.4	23.1	28.1
11月	24.5	39.6	11.3	36.6	22.8	25.7
見通し	19.9	37.8	14.8	23.0	15.8	17.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI